

## 命に関わるお腹の病気 ～急性腹症～

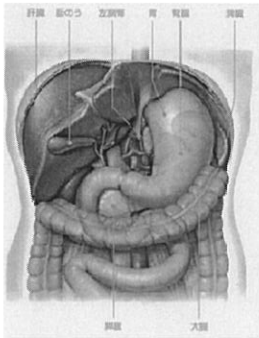
寺岡記念病院 外科  
花畑 哲郎

救急の日  
心筋梗塞（心臓）  
脳梗塞（脳）  
心肺蘇生

発症超早期の対応が必要、遅くなるほど命に関わる  
腹部に関して早期の対応が必要な疾患があります

### 急性腹症

急激な腹痛によって緊急手術の適応か否かの判断が要求される症候



- 腹部のいずれかの臓器が痛みの原因になっている
- 急性腹症のすべてが命に関わるわけではない

### 急性腹症

基本的に緊急手術を必要とする疾患

- 汎発性腹膜炎
- 消化管穿孔
- 虫垂穿孔
- 大動脈解離・大動脈瘤破裂
- 複雑性イレウス
- 子宮外妊娠破裂
- 卵巣茎捻転
- 腸重積(成人)
- ヘルニア嵌頓
- 壊死型虚血性腸炎(腸間膜動脈・静脈の血栓症・塞栓症)
- 重症炎症
  - 急性虫垂炎
  - 急性胆嚢炎
  - 急性膵炎

### 急性腹症

保存的に治療し手術が必要か判断する疾患

- 被覆性消化管穿孔
- 中等度炎症
  - 急性虫垂炎
  - 急性胆嚢炎
  - 急性膵炎
- 単純性イレウス
- 胆石症

原則的に保存治療する疾患

- 急性心筋梗塞
- 尿路結石
- 腎盂腎炎
- 急性胃腸炎
- 消化管潰瘍(穿孔を伴わないもの)
- 虚血性腸炎(壊死型でないもの)

### 急性腹症の原因

大きく分けて

- 臓器の炎症によるもの
- 結石によるもの
- 臓器の血流障害によるもの
- 血管の破綻によるもの

### 臓器の炎症によるもの

腸管:消化性潰瘍(→消化管穿孔)  
急性虫垂炎(→虫垂穿孔)  
急性腸炎  
虚血性腸炎  
大腸憩室炎(→憩室穿孔)  
胆嚢:急性胆嚢炎  
膵臓:急性膵炎  
腎臓:腎盂腎炎

命に関わるのは  
汎発性腹膜炎→敗血症

### 血流障害によるもの

- 腸閉塞(絞扼性イレウス)
- ヘルニア嵌頓
- 腸重積(成人)
- 腸捻転
- 腸間膜動脈・静脈の血栓症・塞栓症
- 卵巣茎捻転

### 血管の破綻によるもの

- 腹部大動脈瘤破裂
- 急性大動脈解離
- 子宮外妊娠破裂

### 命に関わる疾患

- 臓器の炎症によるもの  
消化性潰瘍の穿孔、虫垂穿孔、憩室穿孔  
→広い範囲の腹膜炎(汎発性腹膜炎)
- 臓器の血流障害によるもの  
絞扼性イレウス、ヘルニア嵌頓、上腸間膜動脈閉塞症  
→広い範囲の腸管壊死
- 血管の破綻によるもの  
腹部大動脈瘤破裂、急性大動脈解離、子宮外妊娠破裂  
→大量の出血

### 汎発性腹膜炎→敗血症

- 細菌が腹腔内で増殖し、感染症が全身に波及した非常に重篤な状態。
- 末梢組織に十分な栄養と酸素が届かず、臓器障害や臓器灌流異常、血圧低下が出現する(細菌性ショック)。進行すれば錯乱などの意識障害を来す。血栓が生じ多臓器が障害(多臓器不全)され、また血小板が消費されて出血傾向となると、早晚死に至ることが多い。
- 大腸菌などのグラム陰性菌であると、菌の産生した内毒素(エンドトキシン)によってエンドキシンショックが引き起こされる。

治療:感染臓器の切除あるいは穿孔部の被覆  
腹腔洗浄ドレナージ

### 腸管壊死

- 血流が10~12時間以上障害されると、患部の腸が壊死
- 壊死した腸管内で細菌が繁殖し、細菌が全身に侵入します。腸の壊死が生じると、ショック、臓器不全が起こりやすくなり、死に至ることもあります(敗血症性ショック)。
- 壊死腸管が短い場合は致命的になりにくい
- 腸管壊死を回避できる頻度は発症後12時間以内で100%、12-24時間で56%、24時間以上で18%と報告されている

治療:壊死腸管の切除

### 大量出血

- 急速な出血のため循環血液量が減少し、十分な血圧が保てなくなりショックに陥る(出血性ショック)。
- 酸素や栄養素の全身への輸送が、血流低下により妨げられ、全身組織の機能不全を呈することになる

治療:止血、血行再建

### 命に関わる疾患

- 臓器の炎症によるもの  
→広い範囲の腹膜炎(汎発性腹膜炎)  
→敗血症性ショック
- 臓器の血流障害によるもの  
→広い範囲の腸管壊死  
→敗血症性ショック
- 血管の破綻によるもの  
→大量の出血  
→出血性ショック

いずれもショックを起こす

### ショック

- 血圧の低下によって、組織(細胞)に十分な血流が送れなくなった状態
- 生体の維持に必要な細胞機能が障害され、それが全身レベルに発展すると致死的となる



ショックになる前の対応が必要

### 症状

- 臓器の炎症によるもの  
数日前から炎症所見あり  
腹痛(限局的)・嘔気・嘔吐・食欲不振・発熱  
悪化すると腹膜刺激症状(腹膜炎の所見)  
時間がたつとショックに移行
- 臓器の血流障害によるもの  
急に激しい腹痛(結石かもしれない)  
初めは圧痛も弱い、悪化すると腹膜刺激症状  
数時間でショックに移行
- 血管の破綻によるもの  
急に激しい腹痛、意識障害を伴うこともある  
急速にショックに移行

### 腹膜刺激症状

- 腹膜炎の所見
- 患部を深く押さないと痛がらなかったものが、その部分の腹壁を軽く抑えるだけで激痛が生じるようになる(限局性腹膜炎)
- 痛むところから離れた部分を軽く抑えても痛がる(汎発性腹膜炎)



### 対応

- 自分の持病を知ってしっかり治療しておく。
- 激しい痛みのはきは、我慢せずに医療機関を受診する。
- 血圧が低下(脈圧が低下)したり、腹膜刺激症状を認めた場合、意識障害のある場合は救急車を利用する。
- 高齢の方は我慢強く、来院時にはひどい状態になっていることが多い。いつもと様子が違ったら、ご家族が早めに対応を。
- 心肺停止時には蘇生措置。